

2015年(仏歴2546年)7月1日発行

福島を忘れないベンチ

存明寺住職が定期的に訪問している福島県の仮設住宅には、木製のベンチがあちこちに置かれています。これは仮設に住む筒井さん（大工さん）が作ったもの。人々はそのベンチに座り、対話を楽しんでいます。

その筒井さんに作っていただいたベンチが存明寺にやってきました。福島原発の事故により、ふるさとから避難生活をしている方々は約二十一万人。「福島を忘れないで」「そこに人がいるのだから」このベンチには、そんな願いが込められていることを痛感します。



國豊かに民安し 兵戈用いることなし

『仏説無量寿經』お釈迦様さま

國が本当に豊かで、その民が安らかであるためには、兵（兵隊）や戈（武器）で身を固めることは、無用なこと。お釈迦様はこのように説かれました。まるでその逆を行くかのように、この国は今、積極的平和主義という美名のもと、武力で身を固め、戦争に参加できる国になろうとしています。

しかし、武力で平和を築くことはできないのです。力で相手をねじ伏せてはいけないのです。

私はひとりの仏教徒として、今回の動きに対し、「反対」の意を表明します。



この夏リニューアルします！

存明寺のHP <http://www.zonmyoji.jp>

涙の出るようなご縁

酒井 義一

うに思い起こされると、友人は静かに語ってくれました。それは次の言葉です。

九州・長崎に行つてきました。仕事が終わり、少し時間ができたので、友人のお寺にお邪魔することになりました。彼とは、若い時から、共に親鸞聖人の教えを学んできた仲です。

本堂にお参りし、お内仏のある部屋に通されました。そこにはお母様と思われる方のお写真と二法名が飾られてありました。お母様は数か月前に、急にお亡くなりになられたとのことでした。

友人の話によると、その日お母様は、なかなか起きてこないので、どうしたのだろうと思つたそうです。部屋に行つてもいない。お母様はお風呂の中でお亡くなりになつていたそうです。

悲しい別れです。そこにいるのがあたり前だった方が、ある日突然、さようならも言わずに去つてしまつたのです。のこされた方々は相当なショックを受けられたのではないかと想像します。そのお母様が生前いつもおつしやつていた言葉が、まるで遺言のよ

涙の出るようなご縁に
遇わない
仏法は響かない

お母様の住んでおられた長崎の言葉で言うと、このようになるそうですね。「涙の出るご縁に遇わんばね、仏法（仏さまの教え）は響かんとばい」

帰り際、お寺の掲示板にその言葉が大きく書かれていました。まるで遺言のようにずつしりと響くお母様の言葉。そして、その言葉を大切に抱きしめていたる友人の姿。とても深く印象に残りました。

人は、苦しみや悲しみを感じるとき、何とかしてそれらを癒すようとしたり、消し去ろうとします、とても切実に…。

しかし、そのお母様の言葉は、深い悲しみや苦しみなど、涙の出るようなご縁に遇わないと、出会えない世界、響いてこない世界があるということを教えてくださっています。

そのような世界に出遇つた時、悲しみや苦しみの意味は一変します。消し去るべきものから、「深きご縁」へと、その意味が転化するからです。

のと別離する時に感じる苦しみは、人間の感じる苦しみの中で、もつとも切実だ、という意味の言葉でしょう。

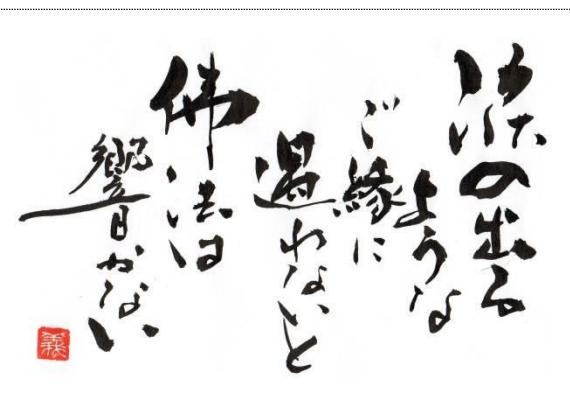
あなたへのメッセージ

今回の言葉は、涙の出るような出来事を体験する人間に、それを深きご縁として、仏法の響く世界に出会いなさいという、呼びかけの言葉のようです。

そのような呼びかけがしっかりと聞こえるよう、仏法の語られる場所にわが身を置くということを、大切にしていきたいものです。



永代経法要に向けたおみがき奉仕のつどい(4月)



永代経法要

えいたいきょう

5月3日 存明寺にて

すべての亡き人をしのぶ「永代経法要」が行われ、お寺の本堂が満堂になるほどの多くの方々が参詣されました。

当日は十一名の僧侶や、七名の勤行衆（存明寺門徒）が出仕し、この日のために練習を重ねた仏説阿弥陀経の法要が行われました。

門徒感話は高橋昭彦さん（存明寺門徒）、ご自身の体験を通して親鸞聖人の世界に出遇われたことが語られました。当日の講師には入江杏さん（絵本作家）をお招きし、「悲しみを生きる力にかかる」というテーマのもと、お話を聞きしました。

入江さんは二〇〇〇年の暮れに起った世田谷一家四人殺害事件の被害者です。大型プロジェクトを使って、事件当時のこと、ご自身の今の思いをお話くださいました。

「曖昧な喪失は心を痛める。自分を責める気持ちから逃れられなかつた。でも、人生には悲しみを通してしか見えないものがある。悲しみは、乗り越えるものではなく、変化していくもの。悲しみを生きる力に…。」とても印象に残った言葉です。親鸞聖人の「悪を転じて徳を成す」という世界に通じるものを感じました。

なお参詣者には存明寺名物の精進料理のお食事（おとき）が振舞われました。

最後には『門徒交流会』があり、多くの方が参加されました。それが感じたことの「ひとつスピーチ」が行われました。

お寺につどう人々の表情が、まるで新緑のように輝いていました。



◆おみがき御礼

※4月25日に実施

甘田富子・荒井治子・井上憲司
内井照江・岡田真・片田律子
加藤京子・北山千恵・小林和子
酒井陽子・佐藤尚宏・佐藤眞彌
佐藤幸子・砂井テル子・杉本仁
角谷軍治・高橋昭彦・武田紀美
津田博司・羽田節子・藤井俊五
松本維邦・山口良子・山田一明
吉野恵美子・竹谷タケ子
山本幸枝

(27名が参加 敬称略)
ご協力、有難うございました。

永代経法要・写真館

(撮影:高橋昭彦さん)



永代経法要に参詣される人々（本堂）



講師の入江さん（左から2人目）とご門徒有志



この日の最後に行われた「門徒交流会」（客殿）



「門徒交流会」でのスナップ写真（客殿）

2015年 存明寺のひろば

- ◆ 7月 12日(日) 11時と1時
おぼん法要 法要と法話
◆ 7月 25日(土)午前10時~
サマーセミナー
講師 梁河文昌先生 (茨城)
- 内容 勤行・法話・座談・懇親会
会費 二〇〇〇円
- ◆ 8月 29日(土)午後2時~
青年のつどい
内容 私の大切な曲コンサート
境内バーベキュー
是非ご参加ください。
- ◆ 9月 12日(土)午後2時~
樹心の会 会費:500円
親鸞聖人に人生を学ぶ
お話 荒井治子さん・酒井住職
- ◆ 9月 20日(日) 10時と1時
秋のお彼岸法要
内容 法要・式典・納骨式
永代供養墓完成セレモニー
落語 瀧川鯉昇師匠 (落語家)
- ◆ 9月 26日(土)午後2時~
グリーフケアのつどい 500円
悲しみを生きる力にかかる
お話しを生きる力にかかる
- ◆ 10月 10日(土)午後2時~
樹心の会 会費:500円
親鸞聖人に人生を学ぶ
お話 三好浩一さん・酒井住職
- ◆ 10月 24日(土)午前10時~
おみがきと清掃のつどい
- ◆ 11月 2日(月)午後2時~
報恩講法要
—親鸞に出遇う法要
講師 伊藤元先生(福岡県)
好評につき伊藤先生の再来です。
- ◆ 11月 21日(土)午後2時~
樹心の会 会費:500円
親鸞聖人に人生を学ぶ
お話 羽田節子さん・酒井住職
- ◆ 11月 27日(金)~ 29日(日)
真宗本廟奉仕団 (京都)
おとなのための修学旅行
◆ 12月 12日(土)午後2時~
樹心の会 会費:500円
親鸞聖人に人生を学ぶ
一年を振り返って大感話大会
◆ 12月 19日(土)午後2時~
グリーフケアのつどい 500円
大切な方を亡くした人々の集い



●青年のつどい

日時 8月 29日 (土)
午後2時~
場所 真宗大谷派 存明寺
会費 三〇〇〇円



企画1 参加型コンサート

「私の大切な曲コンサート」

渡辺 一真さん (ギター・歌)

渡辺亜也子さん (ピアノ)

青年のつどいスタッフ

企画2 バーベキュー交流会 炭火焼の境内バーベキュー

夏の最後の土曜日、毎年恒例の
青年のつどい、開催します。

【あとがき】
▼夏には夏ならではの企画があります。7月のサマーセミナー、8月の青年のつどい、9月の完成セレモニー落語会。それぞれ心こめて準備中です。
▼出会いは、やがて、生きる力となる…。お寺のひろばに、ぜひお出かけください。心よりお待ちしております。(住職)

無量寿 (完成予想図)
9月 20日 (日)、完成セレモニー。

※会場は、すべて存明寺です。
11月の奉仕団のみ京都です。

11月の奉仕団のみ京都です。

東京都世田谷区北烏山4-15-1
真宗大谷派 存明寺
住職 酒井 義一

TEL 03-3300-5057
FAX 03-3300-5880
E-mail : saka@zommyoji.jp